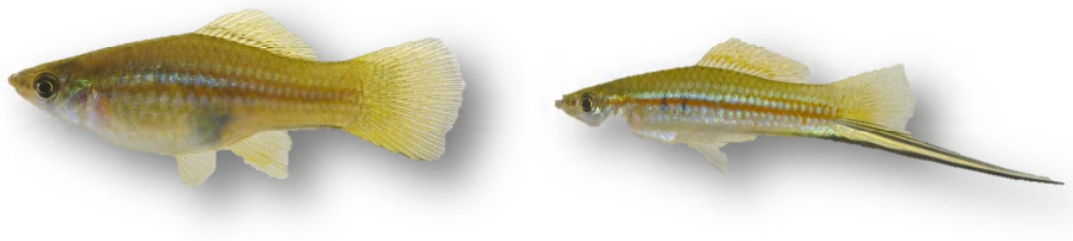
沖縄島における分布拡大が著しい外来魚ソードテールとの戦い

嶋津 信彦

ソードテール *Xiphophorus hellerii* は、中米原産のカダヤシ目カダヤシ科に属す卵胎生魚である。沖縄島では、ボウフラ退治を目的とした放流、飼育個体の放逐や流出などにより、河川や湖沼で見られるようになったとされる。希少付着藻類への捕食、ミナミメダカへの競合による影響が危惧される。今回の発表では、沖縄島におけるソードテールの分布変遷、および源河川と奥川における本種の駆除活動の成果を報告する。

ソードテールの分布記録を文献調査し、個人の未発表記録を加えた。結果、本種は、1987～2009 年に計 8 水系で確認され、名護市に集中して分布していた。2010～2013 年には計 24 水系で確認された。新たに 18 水系で見つかり、北部や本部半島、中南部にも分布が拡大していた。生息が再認されなかった水系は、満名川と駆除活動が行われた源河川のみであった。

本種は源河川では 2005 年 10 月に数十個体が発見され、2006 年 2 月から 2007 年 8 月までに 269 個体が採集された。以降生息が認められず、根絶されたと考えられる。奥川では 2010 年に上流域で数個体が発見され、2012 年には本川と支川の各砂防ダム湛水部で大量に確認された。上流部では 2011 年 7 月からこれまでに 96 個体が採集され、駆除活動の継続により根絶される可能性がある。砂防ダム湛水部の両集団は、2013 年夏季の少雨と秋季の出水の影響により激減したと推測され、12 月の踏査では支川で 1 個体のみ認められた。なお 2013 年初夏に砂防ダム湛水部に下流で採集した肉食魚ユゴイ、オオクチユゴイを放流し、生物的防除を試みたが、これらは湛水部にとどまらず遡上し、効果がなかった。



ソードテールの雌（左）と雄(右)